ア　作品の内容や形式について，書評を書いたり，自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。

イ　作品の内容や形式に対する評価について，評論や解説を参考にしながら，論述したり討論したりする活動。

ウ　小説を，脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動。

エ　演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して，批評文や紹介文などをまとめる活動。

オ　テーマを立てて詩文を集め，アンソロジーを作成して発表し合い，互いに批評する活動。

カ　作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ，その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。

3　内容の取扱い

(1) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕における授業時数については，次の事項に配慮するものとする。

ア　「A書くこと」に関する指導については，30～40単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導すること。

イ　「B読むこと」に関する指導については，100～110単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導すること。

(2) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア　「B読むこと」に関する指導については，必要に応じて，文学の変遷を扱うこと。

(3) 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「B読むこと」の教材は，近代以降の文学的な文章とすること。また，必要に応じて，翻訳の文章，古典における文学的な文章，近代以降の文語文，演劇や映画の作品及び文学などについての評論文などを用いることができること。

イ　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A書くこと」及び「B読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

第5　国語表現

1　目　標

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2　内　容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　言葉には，自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解すること。

イ　話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色について理解を深め，伝え合う目的や場面，相手，手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し，使い分けること。

ウ　自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。

エ　実用的な文章などの種類や特徴，構成や展開の仕方などについて理解を深めること。

オ　省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと。

(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。

〔思考力，判断力，表現力等〕

A　話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　目的や場に応じて，実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め，他者との多様な交流を想定しながら情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討すること。

イ　自分の主張の合理性が伝わるよう，適切な根拠を効果的に用いるとともに，相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫すること。